

vol.74
2021年2月号

たちばなだより

令和3年2月発行



巻頭言

新しい年を迎えましたが、新型コロナウイルスの脅威は一向に収束の気配が見えずウイルスとの闘いは依然として続いています。東京オリンピック・パラリンピックを目前にして、一刻も早く新型コロナウイルスを克服し平和で穏やかな年となることを願うばかりです。この影響により、私たちの日常生活は全般的な見直しを迫られています。こうした中でも、ご利用者の皆様が安心して生きいきと暮らせる生活の場の確保をめざして参りたいと考えております。

ところで、三年ごとに見直される「介護報酬の改定」が今年四月から実施されることになりました。新型コロナウイルスの対応などで厳しくなっている介護事業を安定させるため基本報酬が〇・七%増、九月までの半年間は感染症対策としてさらに基本報酬に〇・二%が上乘せされるとのことです。

当法人としてはコロナ禍の中で厳しい財政状況ですが、ご利用者が真に必要とされる事業に積極的に取り組んで参ります。

ご家族や地域の皆様には引き続きご支援・ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

社会福祉法人 茶屋の園

理事長 木所まさ子



ドライエリアに設置した130kwhの4台の大型蓄電池

近隣マンションの管理組合様と災害時の防災協定を提案するなどの今後の準備を進めています。

当施設の災害対策等は、これで完了するとともに、平成29年度から5年間に及ぶ社会福祉充実計画も4年目の今年度でほぼ終了します。

最後に、この設備を補助事業対象にしていたいただいた東京都環境公社に感謝申し上げますとともに、多くの方々の参考になればと思いますので、見学されたい方はお気軽にお問い合わせください。

(施設長 漆原)

新規職員の挨拶

○鈴木龍也(9月19日採用 介護職員)



現在専門学校に通いながら働かせていただいています。ご利用者が笑顔で楽しく生活できるよう努力していきます、信頼される介護福祉士になれるように頑張ります。

○住澤嘉文(12月1日採用 介護職員)



なるべく早くご利用者の役に立てるように頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。

○坂口純子(12月7日採用 介護職員)



常勤職員として採用していただき、ありがとうございました。ご利用者が安心して楽しく過ごしていただけるように日々努力してまいります。

今後の行事予定

- 2月 ◇節分・誕生会・祝膳 2月3日(水)
- 3月 ◇ひな祭り・誕生会・祝膳 3月3日(水)
- 4月 ◇開所記念日お花見行事 4月1日(木)(予定)

★ご家族の面会は、原則禁止させていただきますが、急病時など特別な場合は、ご相談させていただきます。

茶屋の園サービス理念

- ①個人の尊厳を守り、自由と生きがいのあるサービスを行います。
- ②笑顔と愛情のこもった良質なサービスを行います。
- ③安全で安心の出来るサービスの提供を目指します。

編集後記

一日も早い新型コロナウイルス感染症の収束を願っております。職員一同、感染症対応に努め、皆様にお会いできる日をお待ちいたしております。ホームページも併せてご覧ください。

(高橋(彩))



QRコード
https://www.chayanosono.jp

社会福祉法人茶屋の園情報誌

「たちばなだより」第74号

2021年(令和3年)2月発行
編集・発行 たちばなの園白糸台 漆原尚幸
〒183-0011 府中市白糸台6-2-17
TEL 042(358)0221
FAX 042(335)7717
☆介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)
☆短期入所生活介護(ショートステイ)
☆居宅介護支援事業

茶屋の園では個人情報の取扱いを適正に行い、個人情報の保護に関する法律に基づいて厳正に管理いたします。

行事報告

敬老会



9月21日(月) 敬老会を開催し、65歳以上の皆様に、また特に長寿のお祝いに該当されるご利用者に施設長から賞状等を贈呈し、お祝いしました。

また職員がフルートで、「紅葉」、「里の秋」、「アルルの女から「メヌエット」、「枯れ葉」、「星影のエール」、「上を向いて歩こう」、「アンコールで「川の流れるのように」を演奏し、皆様が聴き入っていらつしゃいました。

「百歳のお祝いをしていただき嬉しいです。もっと長生きしたい。」と仰るご利用者をお支えし、私たち職員がもっとご利用者に喜んでいただける会にしていこうと思いました。



(介護職員 松尾)

レクリエーション大会



10月14日(水)に開催したレクリエーション大会では、例年の「ボウリング」、「風船バレーボール」、「玉入れ」に加え、後述の新規クラブ活動の「あそびクラブ」で好評の「テレビゲーム」による競技を行いました。

任天堂Switchによる各競技では、ご利用者と職員とが一所懸命に身体を使い、白熱した試合をしました。また観戦していたご利用者も、応援に熱が入り、一緒に盛り上がりました。

この際に使用した3台の画面の美しい映像と躍動感に驚かれる方や、初めて



の取組みを楽しまれる方がいました。

今後も、行事やクラブ活動等の様々な活動において、ご利用者が楽しく訓練されて、一層健康になれるよう取り組んでまいります。

(副主任介護職員 稲田)

文化祭



11月4日(水)の文化祭では、ご利用者の書道や絵画の作品を展示したほか、敬老会で好評だった職員によるフルート演奏と、レクリエーション大会で好評だったテレビゲームを行いました。

フルートによる「赤とんぼ」、「小さい秋みつけた」、「四季の歌」、「シチリアーノ」、「パプリカ」、「コスモス」、「君といつまでも」、「時の流れに身をまかせ」美しい音色で曲が流れると、楽しそうに口ずさんでました。また、ゲームをやったご利用者からは「疲れるけど楽しいわ」などの感想をお話されました。このような活動を日常の「あそびクラブ」や余暇活動でもっと活用していきたい、生活リハビリにも生かせると思えました。楽しみのおやつでは、焼き鳥、お汁粉、

豚汁のほかに、お酒を召し上げるご利用者もいて、文化祭を楽しまれていました。

(介護職員 松尾)



クリスマス会

12月23日(水)のクリスマス会では、

サンタとトナカイに扮した職員が各フロア代表のご利用者にプレゼントを渡し、一緒に記念写真を撮影しました。



今回の余興は、この4月に常勤介護職員になる予定の非常勤の職員がヴァイオリンにより「アメイジング・グレイス」、「ヴォカリーズ」、「主よ身元に近づかん」、「アヴェ・マリア」、「ドレミの歌」、「ユーモレスク」を演奏してくれました。自分のおじいちゃんおばあちゃんのようなご利用者に演奏する姿を応援していただき、見守っていたたくという素敵なクリスマスになりました。

(リーダー介護職員 谷戸)

初詣のドライブ

1月6日(水)、例年は初詣に出かけ



ておりましたが、三密を避けて、今年度は調布市の深大寺の入口までドライブし、車内から初詣をしていたいただきました。



道すがら、ドライブスルーカフェのコーヒー等を飲みながらのドライブとなりましたが、初めての取組みに「このお寺に来て、コーヒを飲みながらのドライブは初めて」と喜んでいただけました。

新型コロナウイルス感染拡大により、様々な制約がありますが、私たちが工夫しながら行事等を準備して、少しでもご利用者に楽しんでいただきたいと思います。

(介護職員 松尾)

新年会行事

1月13日(水)の新年会では、今年度好評だったテレビゲームを楽しんでもらい、一年間の邪気を払い一層健康で長寿を願うお屠蘇を召し上がっていただきました。

この一方で新年を迎え、私たち職員は、新型コロナウイルスからご利用者の皆様をお守りし、幸多い年になるようご支援しなければならぬと思身が引き締まる思いでした。

令和2年度、当施設はICT化を大幅に進めたので、これからはむしろアナログなゲームをご用意し、飽きのこない多様な嗜好に合わせられるようにして、ご利用者に興味をもちつつけていただく工夫が必要だと思

(副主任介護職員 稲田)

あそびクラブ

今年度から実施している「あそびクラブ」では、とにかく心身を使ってあそぶことを目指しています。ご利用者が興味をもっていただけるものを職員が考え、これまで取組みのな



この中では、本号の行事でもご紹介しておりますように、任天堂のテレビゲームを導入しています。特にリハビリを兼ねて、オリンピック競技を体験できるものが大変好評で複数のフロアで楽しめるよう追加導入したほか、引続き「脳を鍛えるおとなのトレーニング」、「リングフィットネス アドベンチャー」を試行的に導入するとともに、アナログな「オセロ」、「トランプ」、「花札」、「将棋」、「かるた」、「百人一首」、更には「麻雀」、「パチンコ」なども試行してまいります。



この「あそびクラブ」を通じて、ご利用者が楽しく機能訓練し、心身の機能の維持向上ができることを支援していきたいと考えております。(副主任介護職員 山本(隆))

岡村さんインタビュー

機能訓練指導員(以下「指導員」)で理学療法士(PT)の岡村植也さんに、リハビリテーション(以下「リハビリ」)等のインタビューをしました。



Q 指導員は、どんなことをするのですか？
A 介護保険法により定められた職種で、ご利用者の心身の状態に合わせて機能訓練を行うことなどにより、自立を支援していくための役割を担っています。

ご利用者やご家族の意向を踏まえた上で、ご利用者の身体機能を評価し、どのような訓練が必要なのかを判断し、3か月毎に個別機能訓練計画書を作成します。機能訓練はこの計画書に沿って行われます。

このほか、指導員の定数は1名ですが、当施設は2名の指導員が配置されています。それでも、ショートステイと合せ百名のご利用者を2名の指導員で適切に機能訓練するのは容易なことではないので、当施設では介護職員による「生活リハビリ」をもう一つの柱として、今年度から実施しています。

このようなことから、介護職員が行う機能訓練を指導するというのが、私たちのもう一つの仕事になります。



防災訓練

毎年3回の防災訓練(火災訓練(日勤帯想定・夜勤帯想定各1回)、地震訓練(日勤帯想定))を行っています。



今年度既に実施している2回の火災訓練では、初期消火、消防隊への状況報告などの訓練を行いました。

参加する職員には、今回から実際に災害が発生したときに、慌てずに行動できるように訓練経験の少ない職員、新規採用の職員等を重点的に選り、訓練に参加させました。またこれまで事務室職員が行っていた館内放送を介護職員が行うなど、災害時であっても柔軟な対応ができるよう訓練を実施しました。

今年度内に残っている地震訓練では、消防隊等の到着が遅れることを想定して、職員が利用者への避難誘導訓練を行うなど、できる限り多くのご利用者にも訓練に参加していただく予定です。

なお、AEDや人工呼吸の方法について、普通救命講習を府中消防署に例年ご指導いただき



Q 理学療法士の資格をおもちですが、どのようなことを学ばれましたか？

A PTは専門学校又は大学で、基本的な解剖学、生理学、運動学を勉強して、国家試験に合格して資格を取得します。

Q 理学療法士とはどんなことをするお仕事ですか？

A 先ず、リハビリです。これはラテン語のre(再び)+habilis(適した)を語源とし、「再び適した状態にすること」、「本来の状態への回復」などの意味があります。

理学療法士は、人の基本動作(寝返る、起き上がる、座る、立ち上がる、移乗する、歩行する)能力を、生活状況に合わせてより適した状態に回復するよう訓練を行っています。

Q たちばなの園白糸台のお仕事は具体的にどのようなことですか？

A 特養と短期入所のご利用者へのリハビリ、並びに関節可動域及び認知機能の評価に基づく個別機能訓練計画書を作成すること、さらには、先ほど申し上げた介護職員による生活リハビリに関する指導です。

Q これからの展望や目指すことはどのようなことですか？

A ご利用者がやりたいことや取り戻したい基本動作を伺い、それらを実現することです。この上で、その方のご自宅も含めた生活状況を把握し、生活リハビリ等により、要介護度が改善し、安心して退所できることを支援できればと考えています。

Q 介護職員による生活リハビリは、どのように行い、どのようなことに注意すればいいですか？

しておりますが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中断しております。さらに、当施設の災害対策に関する設備は、電気・ガス・水道のライフラインの保持が可能になったことから、BCP(事業継続計画)を大幅に見直す必要があります。次年度に向け、この検討を進めるとともに、見直し後のBCPに基づいた防災訓練を実施してまいります。

(介護支援専門員 相馬)

選択食



当施設では、毎月誕生会の日に利用者懇談会を実施し、ご利用者が直接各部署の職員に要望を伝えられる機会を設けています。

利用者懇談会で、ご利用者から「カニを食べたい」とのご要望があったため、12月の選択食では「いなり寿司」か「かに寿司」から選んでいただきました。

4割の方が「いなり寿司」を、6割の方が「かに寿司」を選ばれており、皆様美味しく召し上がってました。次回の選択食も、お楽しみに☆

(副主任管理栄養士 朝井)



Q 最後に、このような効果を簡単にできる訓練を教えてください。

A 介護の性格上、ついついご利用者を介助しようとするのが見受けられます。しかし、先ずは、基本動作の中でご利用者ができるものはご本人にやってみてもらい、できないことを介助することです。これにより、身体機能の維持に繋がると思っています。

次に、この上で、できることをより円滑に行えること、できないことを少しずつ訓練していくことが向上に繋がります。この際、ご利用者に対して「こういう動作はできるだろうか?」という視点を持ち、関連する様々な動作を試していくことで、可能性を高めていく努力をしていき、少しでもできることが増えて向上した場合は、この効果を私たちも確認し、ご利用者と介護職員と一緒に、喜びを分かち合うことが大切だと思います。

Q 最後に、このような効果を簡単にできる訓練を教えてください。

A 身体の訓練だけではなく、会話によるコミュニケーションも重要ですが、この会話が少ないように思います。

また身体を使うゲームなどを楽しく行うことも大切だと思います。私はいつも、ご利用者の可能性を信じたと思います。ご利用者から、ご利用者に接しています。

機能訓練指導員 岡村



▼感染症について▲

新型コロナウイルス（以下「コロナ」）の感染が世界中に拡大し、日本でも「緊急事態宣言」が発令され、収束に向かう気配がありません。

そこで、本号では、コロナをはじめとする感染症に対する当施設の対応や、これらからご自身を守るために参考にしていただけるお話しをさせていただきます。

まず、コロナなどの症状についてお話しします。毎年、秋から冬にかけて流行するインフルエンザとコロナとは、どちらも呼吸器感染症で、発熱、咳、頭痛、倦怠感（だるさ）、筋肉痛といった症状が似ています。コロナの特徴的と言われる息切れ、嗅覚・味覚障害といった症状は、必ず発現するとは限らないため、結果としてインフルエンザとコロナとを区別するのは難しいこととなります。

当施設では、疑わしい症状があるご利用者は、協力医療機関の発熱外来を受診します。緊急の場合など、医師の指示により、当施設



の看護師がインフルエンザ及びコロナと一緒に30分間で判定できる抗原検査を行います。

次に、予防対策です。当施設では、空調の室内機に装備している除菌ユニットやオゾン発生器、さらに施設全体をウイルスが感染しにくくなる絶対湿度11g/m³を達成できる加湿設備を設置するとともに、手洗い、アルコール消毒の徹底、次亜塩素酸イオン電解水の携帯等を実施しています。また全職員を対象に防護服等のガウン・テックニックスについて内部研修を行ったところです。

マスクについて、不織布マスク、布マスクは、吐出して80%、吸込みで60%、80%を抑えられることがわかっています。ただし、これは鼻・頬・顎をしっかり密着させて使用した結果ですので、着用の仕方には十分注意する必要があります。

ご利用者、ご家族の皆様には、面会も制限させていただいておりますので、寂しい思いをおかけして申し訳ありませんが、ご利用者のワクチン接種や新規感染者数の減少などを迎えるまで、引き続きご理解、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

（主任看護師 荒井）

○排泄ケアの取り組み○



私たちはご利用者の尊厳を一層守ることを目指し、ユニ・チャーム メンリッケケルさんと、ここ数年、排泄ケアをより向上させ、オムツから布下着にする取り組みを行ってまいりました。令和元年度から当施設を担当していただいている同社の菌部綾乃さんのお話しをご紹介します。

皆様こんにちは、ユニ・チャーム メンリッケケル菌部と申します。今回排泄とそのケアにおける当社とたちばなの園白糸台様との取組み等について、お話しさせていただきます。

排泄ケアは心のケアと呼ばれています。これは、排泄はとてもプライベートな行為であり、それが生涯続くためです。失禁されても、その方らしさは何も変わらないものですが、ご利用者が心地よく快適に毎日お過ごしいただくため、「たちばなの園白糸台」としてどのように排泄ケアに取り組むかということについて、私の前任の鈴木のとときから熱心に検討されてきました。平成二九年度から当社開催の研修会にも積極的に参加され、今年度から当社のTENNA（テナ）を全面的に採用していただきました。

かを伺ったところ、まず尿取りパットを重ねず1枚で使う形状であることと伺っております。そしてオムツは下着なので、着け心地、動きやすさ、ムレにくさの点をあげていただきました。

そこで、製品案内ではありませんが、この打合せの中で「フレックス」という人間工学に基づいたデザインによる不要な部分を取り払ったユニークな形のもので、太もも付け根の関節を覆わず、動きやすく、締め付けの少ない快適なものを提案させていただきました。

ご利用に当たり、当社は「お一人おひとりに合う排泄ケア」を目指し、次の3つの取組目標を提案いたしました。達成度合いと合せてご説明いたします。

目標① ご利用者に合った尿の吸収量による製品の選択と交換時間を設定すること

達成しました。尿量を測定させていたデータ上、排泄リズムを把握し、これらのデータに基づき、製品選定、及びトイレの誘導時刻の見直しを重ね、排泄ケアプランを繰返し策定することにより、実施できました。

この結果、トイレ誘導の成功率が向上し、さらにパラマウントベッド(株)製の眠りSCANによるモニタリングと合せ、継続的な睡眠の確保ができたこととなっております。

目標②

着け心地、動きやすさ、ムレが少ないことによる快適性の向上を達成しました。TENNAフレックスを適切に使用できるようスタッフ全員が、当て方の講習に参加し、自分に装着するなどして学ばれた結果、モレが生じることなく、ご使用いただけるようになりました。

この結果、職員さんから、より安心してケアできるようになったという評価と、ご利用者からは「今までよりすっきりしている」というお声をいただきました。

目標③

自立排泄できる方を少しでも増やすこと

達成しました。①の排泄リズム等のデータとADL情報により、オムツをはずせそうな方をピックアップし、水分の摂取を把握し、トイレでの排泄に取り組みました。

この結果、4名のご利用者が布の下着になりました。ご利用者から「もう2度と布下着は履けないと思っていました」というありがたいお声をいただきました。

今後も、施設様の目標の「自分だけでできる排泄」を目指し、施設様、ご利用者と力を合せ、一人でも多くのご利用者を笑顔にすることを支援させていただきます。

ユニ・チャーム メンリッケケル 菌部綾乃
（高橋・白方主任、山本(隆) 副主任）

○太陽光発電設備等設置○

社会福祉充実計画による施設設備の補修・改修の後半の事業となる本設備の設置が昨年11月に完了しました。

主な発電設備は、写真の太陽光パネルを屋上に、またその次の写真の大型蓄電池をドレイエリアに設置し、平時は電気料金を削減し、停電時はLPガス発電機とともに当施設への電力の安定的な供給を目指します。これらにより、停電時であっても次のような対応が可能になりました。

まず、照明とコンセントが使える、明るい中、ナースコール・電動ベッド・喀痰吸引器等を使用できます。

近年は40℃近い酷暑になることから、特に夏季の冷房は極めて重要なことです。そこで、元年に設置した天井除湿放射冷暖房設備「天空」が冷風のない快適な冷房により、停電時も各階の食堂を空調できるようにしました。さらに、揚水ポンプにより、24m³の簡易専用水道水を蛇口から給水することができ、断水が長期に及んだ場合も備蓄水のほか、24m³の水を濾過して飲むための対用品を備蓄しております。

一方、元年設置の加湿設備の熱源であるLPガスを厨房にも配管し、調理の熱源や温かいタオルなどを使用できるようにしました。

これらの設備を地元の皆様にもお役に立てるよう、



屋上太陽光パネル 63kw を発電